

日 本 言 語 文 藝 研 究

第 13 號

【講演】

- なんのための和歌か——『古今集』仮名序の思想 錦 仁 1
 与謝野晶子における〈産む性〉 太田 登 14

【発表論文】

- 日本語学習者における格助詞「を」「に」の習得過程に関する一考察
 —台湾人学習者および韓国人学習者を対象に— 蘇 雅玲 22
- 正倉院文書「種々薬帳」の異体字について…中間報告 兒島慶治 35
- 中日語彙対照研究—身体語彙「顔」を用いた語の意味分布傾向調査— 蘇 鈺甯 49
- 中日語彙使用と文化概念への一考察—「お宅」と「お家派」を中心に— 黄 愛玲 68
- 日文中訳における重層構造の取り扱いについて
 —長い連体修飾構造の翻訳における問題点を中心に— 蔡 佳樹 101
- 日中翻訳作品から見た言語・文化の差異—台湾を中心として 歐 薇蘋 121
- 事態把握と意味拡張—現代日本語の「テイル」を中心として— 林 志原 131
- 翻訳に見る日中両語の人称の差異——加訳・減訳・変換を中心に—— 黒瀬恵美 142
- 日本語複合動詞の使用実態調査—週刊誌に現れる複合動詞を中心に— 何 志明 167
- 授受本動詞の理解と教え方を考える 井上ゆみ 189
- 台湾人日本語学習者による意見表明に関する研究—母語の影響を中心に— 黄 士瑩 204
- 日本語・台閩語における連語の対照研究
 —「取り外し動詞（去除動詞）と物名詞との組合せ」を中心に— 施 淑恵 227
- 直接法による日本語教育における『導入』に対する一考察 白寄まゆみ 253
- 白井新太郎の漢詩における「仗劍」 石井 周 274
- 認知範疇論の視点と外地文学—西川満の歴史小説を例として— 林 憲宏 294
- 「荒地」の詩と台湾の詩との関係 陳 采玉 305
- 有島武郎論—信仰と棄教の狭間で 米山禎一 324
- 台湾のキャッチアップと技術革新の現状 堀 高志 349
- 海外実習を通して身につける異文化対応能力 金秀英・張郁雯 365
- 日本の中小企業におけるアジアへの海外進出 莊 幸美 384
- 日本鉄道企業の駅ナカ及び電子マネー戦略 JR 東日本を例として 劉 伯雯 395

2013年2月

台灣日本語言文藝研究學會

日本語言文藝研究

第 13 號

2013 年 2 月

台灣日本語言文藝研究學會

日語複合動詞在週刊的運用情況調查

何志明

中国語の要旨

內容提要

日語複合動詞向來被視為日語學習的其中一個困難地方，不過它並非教學上優先處理的學習要點。對學者和教師而言，如何能有效率地學習複合動詞是個值得探討的問題。複合動詞不單數量多而且能表示多項意思，學習人士要完全掌握所有複合動詞的用法是個極大的負擔。再者，並非所有複合動詞都是常用，因此應考慮優先教授常用的複合動詞。本論文以報導時事為主的週刊雜誌為考察對象，調查當中出現之複合動詞的次數。比較在週刊雜誌中出現的複合動詞和近年出版的中、上級日語教科書中被採納的複合動詞後，發現在週刊雜誌中出現次數最多的首 100 個複合動詞約有 60% 同時被教科書採納。換言之，在週刊雜誌中常常出現的複合動詞不一定同時被教科書採納。有見及此，今後檢討複合動詞的引入方法時，可以考慮以日語作為母語的人士在日常生活中常用的語言資料作參考對象。

キーワード：複合動詞、週刊、出現次數、語料庫、調查

日本語複合動詞の使用実態調査

—週刊誌に現れる複合動詞を中心に—

何 志明

要旨

日本語複合動詞は従来、習得が難しい学習項目とされており、教育現場で積極的に導入される項目であるとはいえない。日本語学習者が複合動詞を習得する際、どのようにすれば効率的に習得できるかということは研究者や教師にとって興味深い課題である。複合動詞は数が多く、多様な意味を持っているものであり、すべてを習得しなければならないとすれば学習者にとって大変な負担になる。しかも、すべての複合動詞の使用頻度が高いというわけではないので、使用頻度の高いものから教えたほうが効率的であると考えられる。そこで、本稿では、時事問題関連の記事を中心とした週刊誌に出てくる複合動詞を調査対象とし、それらの出現頻度を考察する。週刊誌によく出てくる複合動詞を、近年出版された一部の中・上級日本語教科書に掲載されている複合動詞と比較した結果、週刊誌に出てくる複合動詞の中で出現頻度の高い上位 100 語のうち、教科書にも取り上げられているものは約 60% にとどまっていることがわかった。言い換えれば、週刊誌によく出ている複合動詞は教科書が採用しているものとは必ずしも一致していないのである。このことから、今後は日本語母語話者が日常的に利用している言語資料を用い、複合動詞の導入のあり方を検討していかなければならないと考える。

キーワード：複合動詞、週刊誌、出現頻度、コーパス、調査

1. はじめに

本研究の目的は、主に時事問題を取り扱う専門誌である、朝日新聞出版発行の週刊誌『アエラ』(AERA)を調査し、日本語複合動詞の使用実態

を明らかにすることである。日本語学習者にとって、複合動詞は習得が難しいものの1つであると言われている。本研究は、先行研究における複合動詞の習得についての考え方を検討した上で、実際に日本語母語話者が使用している複合動詞とは何かという観点から、学習者に「最小限」必要な複合動詞を導入することを提案し、優先的に教えなければならない複合動詞を探る。つまり、選択的に習得すればよいと提案することによって、すべての複合動詞を習得しなければならないという心理的負担から開放して学習意欲を高め、効率的に複合動詞を習得することを目指す。そのため、日本語母語話者に読まれている週刊誌を調査し、どのような複合動詞が使用されているかを考察する。

2. 先行研究

先行研究には、現在の複合動詞の習得上の問題について論じているものがいくつかある。松田(2004:2)では、「複合動詞の結合条件」、「単純動詞と複合動詞の使い分け」、「習得方法」の3点が学習者にとって習得の困難点であると述べている。松田(2004)が指摘しているように、これらの点が複合動詞の習得に困難をもたらしている要因といえる。上記の問題点を解決するための提案として、何(2010a, 2010b)が挙げられる。何(2010a)は、コーパスを用いて選び出した使用頻度が高い複合動詞例について学習者の習得状況を調査した。また、何(2010b)は、これまで先行研究では注目されていなかった学習者の複合動詞全体の習得に注目し、学習者が複合動詞をどれぐらい理解しているかをアンケート調査で調べ、複合動詞の理解及び使用実態を検証した。何(2010a, 2010b)により、学習者による複合動詞の習得状況及び誤用の実態が明らかになった。しかし、時間的な制限や学習意欲の問題などの理由で膨大な数の複合動詞をすべて教えることは非常に難しい中、優先的に教えなければならない複合動詞を決める手がかりはまだ見つけられていない。では、教材開発の視点からは、複合動詞の導入についてどのように考えられているのだろうか。田中(1996, 2004)では、複合動詞は日本語の教科書の学習項目としてほとんど取り上げられていないと指摘している。先行研究の指摘通り、現在出版されている日本語教科書でも複合動詞はあまり取り上げられていないのだろうか。これについて調べるため、何(2012)では、現在市販されている、2000年以降に出版された中・上級日本語教科書を6種類選出し、索引または語彙リストに掲載されている複合動詞を調査して出現頻度の高いものを提示した。選出した教科書は下記の通り(出版年の古い順)である。

- a 書名：『日本語中級 J501—中級から上級へ—』（以下、J501）
出版社／出版年：東京：スリーエーネットワーク，2001年
- b 書名：『上級日本語教科書 文化へのまなざし』（以下、まなざし）
出版社／出版年：東京：東京大学出版会，2005年
- c 書名：『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 56 中級前期』（以下、中 56）
出版社／出版年：東京：スリーエーネットワーク，2007年
- d 書名：『みんなの日本語 中級Ⅰ』（以下、MI1）
出版社／出版年：東京：スリーエーネットワーク，2009年
- e 書名：『上級へのとびら コンテンツとマルチメディアで学ぶ日本語』
(以下、とびら)
出版社／出版年：東京：くろしお出版，2009年
- f 書名：『ニュースの日本語 聴解 50』（以下、ニュース）
出版社／出版年：東京：スリーエーネットワーク，2010年

何(2012)で調査した日本語教科書 6 冊に掲載されている複合動詞の数 (異なり語数のみ) と、複合動詞の出現頻度の高い順を以下に示す。

書名	異なり語数
『J501』	113
『まなざし』	90
『中 56』	24
『MI1』	27
『とびら』	27
『ニュース』	24

教科書に採用されている複合動詞の内訳は以下のようにまとめられる。

出現回数	異なり語数	複合動詞例
5回	1	取り入れる
4回	1	落ち着く
3回	7	取り上げる、引き受ける、思い込む...
2回	32	取り組む、受け入れる、作り出す...
1回	211	思い出す、受け取る、見上げる...

森(2011:57)では、初級で教えるべき文法項目について、学習者の習得状況を考慮して必要な項目や定着しにくい項目を探すことは日本語教育文法にとって有益な分析であるが、その前に「そもそも日本人が使っているのか」ということを明らかにする必要があると指摘している。筆者は、文法項目だけでなく、複合動詞のような語彙の習得についても同じことが言えると考えます。つまり、限られた授業時間の中で、学習者には一般的に使用頻度の高い複合動詞を教えるほうがより効果的であろうということである。「日本語母語話者が使っている複合動詞はどのようなものなのか」という疑問に答えるために、彼らが日常的に使っている言語資料を調査する必要があります。

3. 本稿の目的

本研究の目的は、日本語母語話者が日常的に利用している言語資料、つまり、雑誌を通して日本語母語話者にとって知らなければならない頻繁に使われる複合動詞を特定し、先行研究では言及されていない複合動詞導入の優先順位を決める手がかりを探ることである。石井(2007)によると、複合動詞の数は約2,500語に上っている。確かに、すべての複合動詞を習得するのは無理があり、またその中には日本語母語話者もあまり使用していないものが含まれているので、せっかく習っても使う機会がない場合もあると考えられる。複合動詞の習得を促進するためには、まず日本語母語話者がよく使用する複合動詞を洗い出す必要がある。

4. 調査対象及び方法

4.1 調査対象

朝日新聞出版発行の週刊誌『アエラ』(AERA)は、時事問題関連の記事を中心とした週刊誌である。正式には『朝日新聞ウィークリー AERA』という。社団法人日本雑誌協会のデータによると、2008年～2011年の間『アエラ』の印刷証明付発行部数は約15～16万部(3か月ごと)としている。発行部数から見るとほかの女性週刊誌などと比較して必ずしも高いとはいえないが、上級日本語学習者にとって性別を問わず成人の日本語母語話者によく読まれている読み物に出てくる語彙や表

現は重要な学習資料であると考えため、本研究はそれを調査対象とした。

4.2 調査方法及結果

本研究では、2006年から2011年までの6年間に発行された週刊誌『アエラ』計140冊(2006年Vol. 19, No. 1-7, 9-11, 13-15, 17-18, 20-23, 25, 27, 28, 30-35, 37-41, 44-51, 53-56, 58, 60-61, 2007年Vol. 20, No. 1-4, 6, 8-12, 14-16, 18-27, 29-32, 34, 36-42, 47-51, 53-56, 2007年Vol. 21, No. 1, 2008年Vol. 21, No. 2-3, 6, 8, 12-13, 15-18, 22-26, 28-29, 31, 33-36, 38-47, 49, 51-53, 55-57, 2009年Vol. 22, No. 2, 7, 12, 41, 2010年Vol. 23, No. 18, 47, 2011年Vol. 24, No. 6, 9)を調査した。出現頻度(延べ語数)の順位1位から100位までの結果は下記の表1の通りである。

表 1

順位	V1(読み)	V2(読み)	V1(書き)	V2(書き)	出現頻度	教科書
1	とり	くむ	取り	組む	789	○(注1)
2	で	あう	出	会う	709	×
3	くり	かえす	繰り	返す	649	○
4	ふり	かえる	振り	返る	618	×
5	み	つける	見	つける	591	○
6	うけ	いれる	受け	入れる	447	○
7	おもい	だす	思い	出す	429	○
8	つき	あう	付き	合う	414	○
9	うみ	だす	生み	出す	405	×
10	み	つかる	見	つかる	389	○
11	で	かける	出	掛ける	380	×
12	むき	あう	向き	合う	312	○
13	たち	あげる	立ち	上げる	305	×
14	とり	あげる	取り	上げる	305	○
15	うけ	とる	受け	取る	294	○

順位	V1(読み)	V2(読み)	V1(書き)	V2(書き)	出現頻度	教科書
16	ひき	だす	引き	出す	275	○
17	もり	あがる	盛り	上がる	260	×
18	のり	こえる	乗り	越える	251	○
19	おち	こむ	落ち	込む	248	○
20	うけ	とめる	受け	止める	243	×
21	おち	つく	落ち	着く	237	○
22	はなし	あう	話し	合う	235	○
23	み	つめる	見	つめる	224	×
24	み	まもる	見	守る	220	×
25	くみ	あわせる	組み	合わせる	218	○
26	とり	もどす	取り	戻す	214	○
27	とり	いれる	取り	入れる	202	○
28	うち	だす	打ち	出す	200	○
29	しり	あう	知り	合う	200	○
30	もち	こむ	持ち	込む	197	○
31	ひき	うける	引き	受ける	196	○
32	うち	あける	打ち	明ける	191	○
33	み	なおす	見	直す	190	○
34	うけ	つぐ	受け	継ぐ	182	○
35	よび	かける	呼び	掛ける	180	○
36	とび	だす	飛び	出す	178	○
37	まき	こむ	巻き	込む	178	○
38	おい	こむ	追い	込む	172	○
39	みい	だす	見	出す	168	×
40	なり	たつ	成り	立つ	165	×
41	ひっ	ぱる	引っ	張る	164	○
42	とび	こむ	飛び	込む	161	×
43	いい	きる	言い	切る	159	×

順位	V1(読み)	V2(読み)	V1(書き)	V2(書き)	出現頻度	教科書
44	つくり	あげる	作り	上げる	159	○
45	かき	こむ	書き	込む	158	×
46	かけ	つける	駆け	付ける	158	×
47	たち	あがる	立ち	上がる	155	×
48	とり	だす	取り	出す	155	×
49	たどり	つく	辿り	着く	149	○
50	くり	ひろげる	繰り	広げる	146	○
51	あり	える(うる)	有り	得る	145	×
52	もり	こむ	盛り	込む	145	×
53	きり	かえる	切り	替える	144	×
54	はなし	かける	話し	掛ける	142	○
55	み	こむ	見	込む	142	○
56	のり	だす	乗り	出す	140	○
57	むすび	つく	結び	付く	139	○
58	うかび	あがる	浮かび	上がる	137	○
59	おい	かける	追い	掛ける	134	○
60	ふみ	きる	踏み	切る	133	×
61	いい	だす	言い	出す	129	×
62	うち	こむ	打ち	込む	129	×
63	ひき	おこす	引き	起こす	128	○
64	つくり	だす	作り	出す	127	○
65	つつ	こむ	突っ	込む	126	○
66	ひき	つぐ	引き	継ぐ	126	○
67	おくり	だす	送り	出す	125	×
68	し	あげる	仕	上げる	120	×
69	に	あう	似	合う	118	×
70	のり	こむ	乗り	込む	117	×
71	うつし	だす	映し	出す	114	×

順位	V1(読み)	V2(読み)	V1(書き)	V2(書き)	出現頻度	教科書
72	もうし	こむ	申し	込む	113	×
73	もり	あげる	盛り	上げる	111	○
74	きり	だす	切り	出す	107	×
75	み	のがす	見	逃す	107	○
76	もうし	うける	申し	受ける	107	×
77	とり	こむ	取り	込む	105	○
78	ぬけ	だす	抜け	出す	105	○
79	ひき	あげる	引き	上げる	103	○
80	み	かける	見	掛ける	103	○
81	もち	かける	持ち	掛ける	101	×
82	おい	つめる	追い	詰める	100	×
83	おい	つく	追い	付く	98	○
84	ふみ	だす	踏み	出す	98	×
85	とび	かう	飛び	交う	97	×
86	いき	のこる	生き	残る	96	×
87	ひっ	こす	引っ	越す	96	○
88	より	そう	寄り	添う	96	○
89	おもい	つく	思い	付く	95	○
90	のり	きる	乗り	切る	93	×
91	つき	つける	突き	付ける	92	×
92	うごき	だす	動き	出す	91	×
93	おもい	こむ	思い	込む	91	○
94	み	きわめる	見	極める	91	○
95	おし	つける	押し	付ける	90	○
96	ふみ	こむ	踏み	込む	90	×
97	ふり	まわす	振り	回す	89	○
98	もうし	あげる	申し	上げる	89	×
99	かたり	あう	語り	合う	88	×

順位	V1(読み)	V2(読み)	V1(書き)	V2(書き)	出現頻度	教科書
100	むすび	つける	結び	付ける	88	×

※○印：教科書に採用されている複合動詞

×印：教科書に採用されていない複合動詞

※※一体化していると思われる語：

見つける(順位 5)、見つかる(順位 10)、出掛ける(順位 11)、
似合う(順位 69)、申し上げる(順位 98)

出現頻度の最も高い複合動詞 10 語が使われている文は、例を挙げると
以下のように掲載されている。

- 1 医師団の会見のく雅子妃は元来精神的健康度が非常に高くていらっしゃる」と
いう通り、献身的な女官や看護婦に支えられながら、前向きに治療に
取り組んでいる。

「現代の肖像 雅子妃殿下 苦悩のプリンセスが歩む道」
Vol. 19, No.1, 2006年1月2～9日, p. 71

- 2 漫画を立ち読みする少年など、もしかして昔の自分?と思えるような写真に
出会う展覧会、「日本の子供60年」が、東京都写真美術館で2006年1月9
日まで開かれている。

「子どもの姿に映る戦後」
Vol. 19, No.1, 2006年1月2～9日 (p. 60)

- 3 アメリカの農業は穀物でも野菜でも、結局は水問題で、その水問題の解決の
ために灌漑と地下水のくみ上げを繰り返してきた。

「養老孟司、池田清彦、吉岡忍 本の読み方」
Vol. 19, No.2, 2006年1月16日 (p. 65)

- 4 会社員時代、絲山さんはシステムキッチンやユニットバスなどの販売を手が
ける営業職だった。「上司や工場の担当者と納得がいくまで話し合うタイプ

だった」と、本人は振り返る。

「バブル入社組共感の訳」

Vol. 19, No.4, 2006年1月30日 (p.33)

- 5 その上で、福沢さんは上司や先輩の中から自分の得意分野を認めてくれる人を見つけ、必要とされる存在になることを勧めている。

「横、斜めの人脈を生かす」

Vol. 19, No.2, 2006年1月16日 (p.17)

- 6 激しい腰痛を患い、座れなくなっても、夏樹さんは書き続ける。やがて医師に心身症と診断され、休筆を受け入れる。

「シナプスのつぼ 23 井上由美子—脚本家」

Vol. 19, No.2, 2006年1月16日 (p.78)

- 7 林は当時を振り返る。新しい庇護者の登場が、少女の頃の見捨てられた不安を思い出させたのだろう。農協や町工場のバイトを転々としながら、好きな人と暮らすパートの主婦の生活に満足していた。

「現代の肖像 ダイエー会長兼CEO 林文子 営業に恋したセールス

レディー」 Vol. 19, No.2, 2006年1月16日 (p.62)

- 8 そのひと個人の価値が希薄に感じられる世の中にあって、占いは『自分はナニモノなのか』ということを探る時間にほかなりません。合理的なもの、数値化や記号化されたものに息苦しさを感じた時、神秘的なものとうまい付き合いおうとする日本人のバランス感覚は実に見事です。

「省エネ志向のエハラー現象」

Vol. 19, No.9, 2006年2月27日 (p.50)

- 9 中でも最大の理由は、スター候補が勢ぞろいしていることだ。大会ごとにスーパースターを生んできたW杯が、今度はどんなスターを生み出すのか。

「06ドイツW杯 記者300人と22人の応援団」

Vol. 19, No.2, 2006年1月16日 (p.39)

- 10 息子も一生懸命働いて家族を養っている父親に対しては感謝の気持ちは

持っていたようだ。しかし、一方で父親と同じような平々凡々としたサラリーマン人生は嫌だ、という気持ちもあった。何かこれは、というものが見つければ、それなりに頑張るつもりでいた。

「メールで見せた堀江貴文もう一つの顔」

Vol. 19, No.6, 2006年2月13日 (p.26)

5. 結果分析

本研究で調査対象とした週刊誌『アエラ』140冊中に掲載されている複合動詞の中で出現頻度の最も高い100語を上を示したが、これらの複合動詞がどれぐらい現在の中・上級日本語教科書に採用されているかを何(2012)と比較して調べた。その結果は下記の通りである。

- 1 『アエラ』に掲載されている複合動詞の中で出現頻度の最も高い100語うちの57語が教科書にも採用されている。つまり、採用率は57%である。
- 2 『アエラ』に掲載されている複合動詞の中で一部の一体化していると思われる語(見つける(順位5)、見つかる(順位10)、出掛ける(順位11)、似合う(順位69)、申し上げる(順位98))を除き、出現頻度の最も高い95語うちの55語が教科書にも採用されている。採用率は57.89%である。
- 3 『アエラ』に掲載されている複合動詞の中で出現頻度の最も高い50語うちの33語が教科書にも採用されている。つまり、採用率は66%である。
- 4 『アエラ』に掲載されている複合動詞の中で一部の一体化していると思われる語(見つける(順位5)、見つかる(順位10)、出掛ける(順位11))を除き、出現頻度の最も高い47語うちの31語が教科書にも採用されている。採用率は65.96%である。教科書に採用されていない複合動詞は下記のようなものである。

出会う(順位 2)、振り返る(順位 4)、生み出す(順位 9)、立ち上げる(順位 13)、盛り上がる(順位 17)、受け止める(順位 20)、見つめる(順位 23)、見守る(順位 24)、見出す(順位 39)、成り立つ(順位 40)、飛び込む(順位 42)、言い切る(順位 43)、書き込む(順位 45)、駆け付ける(順位 46)、立ち上がる(順位 47)、取り出す(順位 48)など。

『アエラ』に掲載されている複合動詞の中で出現頻度の高い語のほとんどは、「食べ始める」、「話し続ける」、「読み終わる」のようなアスペクトを示す統語的複合動詞ではなく、語彙的複合動詞(影山(1993))である。語彙的複合動詞は、前項動詞と後項動詞の意味構造によって1つの組み合わせになれるかどうかで決まる。1つの語として前項動詞と後項動詞が密着している語彙的複合動詞は、一見組み合わせが豊富(生産性が高い)に見えるが、統語的複合動詞のように前項動詞と後項動詞なら何でも自由にくっつけることができるわけではない。言い換えれば、学習者の判断で間違った複合動詞を作ってしまう可能性がある。このような間違いを避けるために、体系的に複合動詞を導入する必要がある。

6. 複合動詞のコロケーション

複合動詞の出現頻度が分かれば、どのような複合動詞がよく使用されるかということが分かるが、その複合動詞がどのような語彙と共起するのか、いわゆるコロケーションについて使用例を見なければわからない。上記の週刊誌を通して集計してきた使用頻度のデータがあるものの、それぞれの使用例を集め、データ化あるいは簡単なコーパスにしなければ使用例の検索が難しくなる。たとえ上記の週刊誌をコーパスにするだけでも膨大なマンパワーと時間が必要である。近年、大規模なコーパスが次から次へ登場し、言語研究に重要な道具を提供するようになる。田野村(2010:1)は、コーパスの特性について下記のように説明している。

コーパスは、言語研究資料として大量性と処理の柔軟性という2つの著しい特性を併せ持ち、言語の研究に無限の恩恵をもたらす。コーパスから単に多数の用例を収集して従来のタイプの研究をより精密で実証

的なものにすることもコーパスの有益な用途であるが、コーパスの特性を生かすことにより旧来の言語研究資料では望むこともできなかつたさまざまな種類の研究への道が拓かれる。

田野村(2010:1)より

本節では、大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所が開発した検索システム NINJAL-LWP for BCCWJ (<http://nlb.ninjal.ac.jp/>) で、『アエラ』に掲載されている複合動詞の中で出現頻度の高い語のコロケーションを検索する。NINJAL-LWP for BCCWJ (以下、NLB) は、国立国語研究所が構築した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese: BCCWJ) を検索するために、国立国語研究所と Lingo 言語研究所が共同開発したオンライン検索システムである。まず、『アエラ』に掲載されている複合動詞の中で出現頻度の最も高い 50 語の出現頻度を下記の表 2 に示す。

表 2

順位	V1(読み)	V2(読み)	V1(書き)	V2(書き)	出現頻度 (AERA)	出現頻度 (NLB)
1	とり	くむ	取り	組む	789	2,782
2	で	あう	出	会う	709	2,887
3	くり	かえす	繰り	返す	649	5,574
4	ふり	かえる	振り	返る	618	2,649
5	み	つける	見	つける	591	4,909
6	うけ	いれる	受け	入れる	447	3,134
7	おもい	だす	思い	出す	429	5,327
8	つき	あう	付き	合う	414	2,854
9	うみ	だす	生み	出す	405	2,299
10	み	つかる	見	つかる	389	2,990
11	で	かける	出	掛ける	380	3,772

順位	V1(読み)	V2(読み)	V1(書き)	V2(書き)	出現頻度 (AERA)	出現頻度 (NLB)
12	むき	あう	向き	合う	312	602
13	たち	あげる	立ち	上げる	305	382
14	とり	あげる	取り	上げる	305	3,256
15	うけ	とる	受け	取る	294	3,117
16	ひき	だす	引き	出す	275	1,238
17	もり	あがる	盛り	上がる	260	852
18	のり	こえる	乗り	越える	251	803
19	おち	こむ	落ち	込む	248	848
20	うけ	とめる	受け	止める	243	421
21	おち	つく	落ち	着く	237	2,763
22	はなし	あう	話し	合う	235	1,130
23	み	つめる	見	つめる	224	4,804
24	み	まもる	見	守る	220	1,266
25	くみ	あわせる	組み	合わせる	218	909
26	とり	もどす	取り	戻す	214	1,406
27	とり	いれる	取り	入れる	202	1,491
28	うち	だす	打ち	出す	200	703
29	しり	あう	知り	合う	200	750
30	もち	こむ	持ち	込む	197	1,239
31	ひき	うける	引き	受ける	196	1,223
32	うち	あける	打ち	明ける	191	608
33	み	なおす	見	直す	190	1,065
34	うけ	つぐ	受け	継ぐ	182	836
35	よび	かける	呼び	掛ける	180	1,007
36	とび	だす	飛び	出す	178	1,724
37	まき	こむ	巻き	込む	178	1,126
38	おい	こむ	追い	込む	172	730
39	みい	だす	見	出す	168	1,667

順位	V1(読み)	V2(読み)	V1(書き)	V2(書き)	出現頻度 (AERA)	出現頻度 (NLB)
40	なり	たつ	成り	立つ	165	1,522
41	ひっ	ぱる	引っ	張る	164	1,689
42	とび	こむ	飛び	込む	161	1,398
43	いい	きる	言い	切る	159	183
44	つくり	あげる	作り	上げる	159	1,143
45	かき	こむ	書き	込む	158	781
46	かけ	つける	駆け	付ける	158	872
47	たち	あがる	立ち	上がる	155	3,202
48	とり	だす	取り	出す	155	2,722
49	たどり	つく	辿り	着く	149	1,064
50	くり	ひろげる	繰り	広げる	146	506

次に複合動詞の前に来る助詞のパターンを考察する。日本語学習者にとって複合動詞と共起する助詞という情報は誤用を防ぐための重要なものである。

表 3

複合動詞	が	は	も	の	を	に	へ	で	と	から	まで	より
取り組む	254	96	65	26	49	2,077	21	346	70	100	18	9
出会う	317	130	40	28	18	1,296	1	521	604	15	38	2
繰り返す	575	446	432	19	2,790	562	6	433	43	78	71	2
振り返る	215	370	51	6	1,114	226	16	133	6	60	7	1
見つける	366	211	105	19	3,501	497	1	518	9	66	7	4
受け入れる	337	277	96	9	1,727	608	4	191	15	62	16	7
思い出す	265	495	102	1	3,311	359	2	154	7	21	18	2
付き合う	158	132	88	17	47	431	2	149	778	47	78	3

複合動詞	が	は	も	の	を	に	へ	で	と	から	まで	より
生み出す	477	100	30	32	1,446	169	3	120	9	87	12	1
見つかる	1,432	368	148	15	37	429	0	242	7	85	12	3
出掛ける	302	335	68	4	67	1,932	506	431	70	111	126	2
向き合う	64	32	6	4	7	157	2	61	280	29	4	1
立ち上げる	35	13	7	16	196	47	0	37	2	13	2	0
取り上げる	394	198	94	21	1,498	490	0	592	15	173	32	2
受け取る	265	294	63	51	1,640	369	1	216	98	333	8	4
引き出す	125	42	17	36	838	171	8	64	2	234	11	2
盛り上がる	264	78	33	23	7	131	1	132	13	18	6	7
乗り越える	35	43	25	4	562	61	0	36	2	3	3	0
落ち込む	164	96	33	15	11	241	25	62	8	20	36	3
受け止める	117	173	39	45	707	462	0	165	96	40	4	3
落ち着く	415	292	103	42	167	402	14	131	11	20	7	7
話し合う	109	61	26	6	146	170	2	223	130	4	9	1
見つめる	238	556	64	5	3,739	537	0	545	32	110	17	4
見守る	110	76	15	12	653	140	1	124	7	46	5	0
組み合わせる	13	20	9	1	605	151	0	38	112	9	0	0
取り戻す	132	156	38	3	1,243	147	0	72	1	40	3	1
取り入れる	138	73	83	7	887	554	5	86	4	69	5	2
打ち出す	165	41	18	6	398	120	1	53	0	8	4	1
知り合う	55	39	1	3	11	94	0	260	233	10	8	1
持ち込む	236	52	18	8	536	701	62	55	4	84	20	2
引き受ける	208	135	55	8	696	176	1	86	6	11	17	0
打ち明ける	37	60	21	5	309	208	2	26	2	11	7	1
見直す	78	65	38	5	642	166	0	75	3	63	5	3
受け継ぐ	129	111	36	3	369	139	32	40	8	140	8	4
呼び掛ける	135	93	11	9	189	355	21	131	8	63	0	0
飛び出す	501	146	25	5	304	387	117	74	10	407	12	8

複合動詞	が	は	も	の	を	に	へ	で	と	から	まで	より
巻き込む	134	55	53	3	351	700	4	29	0	8	40	0
追い込む	86	54	15	4	225	562	38	48	4	5	31	0
見出す	221	119	27	5	1,070	552	3	89	14	27	4	4
成り立つ	406	332	68	13	67	205	0	192	13	130	2	4
引っ張る	185	91	20	17	896	346	47	133	12	81	46	1
飛び込む	398	71	21	1	13	914	138	62	10	84	3	1
言い切る	7	24	2	1	12	23	0	12	7	0	4	0
作り上げる	155	28	11	15	706	145	1	104	4	17	7	1
書き込む	91	26	23	7	228	339	3	59	6	6	7	0
駆け付ける	235	48	31	1	5	313	81	70	4	78	16	0
立ち上がる	480	770	78	3	33	332	8	124	18	247	2	2
取り出す	141	206	13	3	2,069	146	2	100	4	937	3	4
辿り着く	79	62	3	2	4	728	81	57	2	18	129	4
繰り広げる	184	18	8	4	207	76	0	110	8	7	4	0

上記のデータからよく複合動詞に共起する助詞はどのようなものなのかを把握することができる。例えば、NLBで調査した結果、「取り組む」の前に来る助詞の中で最も多いのは「に」、「振り返る」の前に来る助詞の中で最も多いのは「を」であるということがわかった。「取り組む」の前に来る「に」の場合は、「積極的に」「継続的に」「徹底的に」のような副詞成分が最も多く(285例)、名詞「問題」(「環境問題」、「大きな問題」など)が次に多い使用例(151例)である。また、「振り返る」の前に来る助詞「を」は、「後ろ」「背後」のような名詞と一緒に使うことが多い(119例)。「取り上げる」は「問題」という目的語を助詞「を」と一緒に使うことが多いという情報を学習者に紹介したほうが複合動詞の取得には有益ではないかと考えられる。表4では、上記の複合動詞50語の前にそれぞれ来る助詞の中で、最も多い助詞に共起する語(主に名詞)をリストアップする。

表 4

複合動詞	が	は	も	の	を	に	へ	で	と	から	まで	より
取り組む						的						
出会う						人						
繰り返す					こと							
振り返る					後ろ							
見つける					の							
受け入れる					それ							
思い出す					こと							
付き合う									人			
生み出す					価値							
見つかる	もの											
出掛ける						【地域】 (注2)						
向き合う									【人名】			
立ち上げる					会社							
取り上げる					問題							
受け取る					それ							
引き出す					力							
盛り上がる	運動											
乗り越える					それ							
落ち込む						中						
受け止める					それ							
落ち着く	気持ち											
話し合う								人				
見つめる					【人名】							
見守る					の							
複合動詞	が	は	も	の	を	に	へ	で	と	から	まで	より
組み合わせる					(これ・ それら)							

取り戻す					さ								
取り入れる					もの								
打ち出す					方針								
知り合う								【地域】					
持ち込む							【地域】						
引き受ける					仕事								
打ち明ける					こと								
見直す					あり方								
受け継ぐ					伝統								
呼び掛ける							よう						
飛び出す	【人名】												
巻き込む							事件						
追い込む							状況						
見出す					(可能,...) 性								
成り立つ	関係												
引っ張る					足								
飛び込む							目						
言い切る		【人名】											
作り上げる					もの								
書き込む							中						
駆け付ける							応援						
立ち上がる		【人名】											
複合動詞	が	は	も	の	を	に	へ	で	と	から	まで	より	
取り出す					タバコ								
辿り着く							【地域】						
繰り広げる					戦い								

例えば、「取り組む」の前に来る助詞の中で最も多いのは「に」で(2,077例)、その「に」と共起する語は「的」(285例)である。使用例を詳しく調べると、「積極的」、「具体的」、「精力的」などのような副詞成分が「取り組む」と一緒に使われることが多い。次に多いのは「問題」(151例)である。すなわち、「～問題」＋「に」＋「取り組む」のような組み合わせが一般的な使い方である。また、「人に出会う」、「ことを思い出す」、「人と付き合う」、「価値を生み出す」、「事件に巻き込む(巻き込まれる)」などのような複合動詞とそのコロケーションと一緒に学習者に提示することが、誤用を減らすことに繋がるのではないかと考えられる。

7. おわりに

本研究は日本語母語話者が利用している週刊誌を使って複合動詞の出現頻度についての調査を行った。本研究の結果を見ると、教科書に掲載されている複合動詞のリストと日本語母語話者が利用している時事問題関連の週刊誌に出現する複合動詞は必ずしも一致しているとはいえない。今後、日本語母語話者によく利用されている読み物に掲載されている複合動詞を参考にしながら学習者のための複合動詞教材開発を行うことを提案したい。

注

- 1 何(2012)で調査した日本語教科書6冊に掲載されている複合動詞に出ているものは「○」、出ていないものは「×」で示す。
- 2 【 】の中にある「地域」は具体的な地名、「人名」は具体的な人名を示す。

謝辞

本研究は、Research Grants Council, Hong Kong による“General Research Fund for 2011/2012”研究助成金(課題名称：“The Usage of Japanese Compound Verbs”、課題番号：445811)を受けて実施したものです。

参考文献

- 石井正彦 (2007)『現代日本語の複合語形成論』ひつじ書房
- 影山太郎 (1993)『文法と語形成』ひつじ書房
- 何志明 (2010a)「香港の上級日本語学習者による日本語複合動詞の習得に関する調査」『東洋文化研究』第12号, pp. 491-510.
- 何志明 (2010b)「習得しやすい日本語複合動詞とは何か?—香港人中上級日本語学習者の習得及び使用実態予備調査を通して」『日本語／日本語教育研究』1, pp. 227-244. 日本語／日本語教育研究会
- 何志明 (2012)「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』及び中上級日本語教科書における複合動詞の出現頻度」『日本語／日本語教育研究』3 pp.261-276. 日本語／日本語教育研究会
- 田中衛子 (1996)「複合動詞—日本語学習者の教育項目として—」『名古屋大学 日本語・日本文化論集』第4号, pp. 83-100. 名古屋大学留学生センター
- 田中衛子 (2004)「類義複合動詞の用法—考—日本語教育の視点から—」『愛知大学語学教育研究室紀要 言語と文化』第10号, pp. 63-79. 愛知大学
- 田野村忠温 (2010)「日本語コーパスとコロケーション—辞書記述への応用の可能性—」『言語研究』138 pp.1-23. 日本言語学会
- 松田文子 (2004)『日本語複合動詞の習得研究—認知意味論による意味分析を通して—』ひつじ書房
- 森篤嗣 (2011)「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』コアデータにおける初級文法項目の出現頻度」森篤嗣・庵功雄(編)『日本語教育文法のための多様なアプローチ』pp. 57-78, ひつじ書房

(香港中文大學日本研究學系副教授)

日本言語文藝研究 第13號
Riben yanyu wenyi yanjiu No.13

發行年月日 2013年2月28日
發行所 台灣日本語言文藝研究學會
通訊處 台南市歸仁區長大路1號
長榮大學應用日語系

電話 (06) 278-5123 轉 4251・4252

ISSN 2225-4951
